

### 3 麦類・大豆・はとむぎ

#### 【大麦】

#### (1) 活動の重点指導事項

ア 収量・品質の向上

#### (2) 活動の経過と実績

ア 収量・品質の向上

- (ア) 苗立数確保のため、排水溝の設置による播種時の土壌条件向上、排水溝の連結等の基本技術の徹底を指導した。
- (イ) 過剰分げつ防止のため、適期播種（10月中～下旬）を基本とし、播種時期に応じた適正な播種量を指導した。
- (ウ) 適正穂数確保のため、気象や生育状況に応じた消雪後追肥を施肥方法別（一発肥料及び分施）に現地講習会や営農だよりで指導し、上乘せ追肥の実施率が向上した。
- (エ) 排水対策実施の徹底を啓発するため、サブソイラ施行による栽培実証ほを設置した。
- (オ) 連作田を中心に、土づくり資材の投入による地力向上対策、難防除雑草の対策を指導した。



排水対策実証ほ



管内麦作巡回

六条大麦の作付状況と収量

市町名	作付面積 (ha)			10a 当たりの収量 (kg/10a)		
	29 年産	30 年産	R 元年産	29 年産	30 年産	R 元年産
JA 加賀	34	26	31	168	138	224
JA 小松市	327	314	315	265	184	327
JA 能美	352	335	316	272	188	353
JA 根上	4	4	5	277	232	334
合計	717	679	667	264	185	334

(麦作検討会資料より)

検査結果

	総検査数量 (kg)	等級比率(%)			
		1等	2等	規格外	
27年産	2,230,278	78.3	—	21.7	
28年産	2,473,991	65.2	—	34.8	
29年産	2,478,858	77.4	—	22.6	
30年産	1,572,079	80.5	—	19.5	
R元年産	J A加賀	93,400	86.5	—	13.5
	J A小松市	1,152,005	84.6	—	15.4
	J A能美	1,225,844	86.9	4.0	9.1
	J A根上	17,410	85.5	6.1	8.4
	合計	2,488,659	85.9	2.0	12.2

注：規格外は2.4mm（または2.35mm）調製網下、2等は種子調製の2等麦  
（南加賀農林総合事務所調べ）

【小麦】

小麦は刈り取りが梅雨時期と重なり雨による品質の低下が心配されるため、昭和58年以降、栽培が敬遠されてきたが、小松市の特産品である小松うどんに利用するため、J A小松市では平成22年より栽培を再開した。

当事務所では、小麦の栽培に当たって、①刈り取りを梅雨の晴れ間の1日で終了できるよう、1地区当たりの作付面積を5ha以内とするよう指導するほか、②小麦栽培マニュアルの作成、管理情報の発信等の支援を行った。

なお、小麦は金沢市内の業者で製粉されている。

小麦（ゆきちから等）の作付状況と収量

	作付面積 (ha)	10a当たり 収量 (kg/10a)	生産量(t)
26年産	25.0	407	107.1
27年産	28.5	256	73.1
28年産	36.3	400	145.3
29年産	37.7	335	126.0
30年産	39.2	296	116.2
R元年産	39.4	298	122.9

（南加賀農林総合事務所調べ）



【はとむぎ】

はとむぎは、能美市で栽培され、はとむぎ茶に加工、販売されている。

当事務所では、播種や収穫、病虫害防除など、栽培管理について指導を行った。

はとむぎの作付状況と収量の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	R元
作付面積(ha)	3.2	2.7	3.5	3.5	3.5	3.0
収穫量(t)	9.8	9.3	12.3	12.0	8.0	9.0
収量(kg/10a)	305	346	351	343	229	300
栽培農家数(戸)	8	8	9	9	9	6

（南加賀農林総合事務所調べ）

## 【大豆】

### (1) 活動の重点指導事項

ア 収量・品質の向上

### (2) 活動の経過と実績

収量・品質の向上

- (ア) 大豆栽培技術研修会を開催し、「里のほほえみ」の品種特性に合わせた適期・適量の播種を指導した。
- (イ) サブソイラ施工、畝立て同時播種機等の排水対策の実証ほを設置するとともに、生産者を対象とした実演会を実施した。
- (ウ) 苗立の安定確保のため、排水溝の早期設置と碎土率の向上について指導した。また、初期生育の確保のため、種子処理剤(フタスジヒメハムシ対策)の使用を推進した。
- (エ) 被害粒低減対策として、ウコンノメイガ、マメシクイガ等に対応した防除を指導した。
- (オ) 開花期以降の畝間かん水の効果を栽培講習会や営農だよりで示し、適期の栽培管理を促した。
- (カ) 生産者参加型の刈取適期調査や地区毎の成熟期の把握を行い、適期収穫の実施を指導した。また、生産者が適期を容易に判断できるように刈取適期 判断早見表を提示した。



大豆栽培講習会 (JA 小松市)



大豆栽培講習会 (JA 能美)



排水対策の実演会 (JA 能美)



## 大豆の作付状況

(ha)

J A	29年産			30年産			R元年		
	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計
加賀	160	4	164	150	4	154	141	5	146
小松市	73	157	230	48	157	205	20	170	190
能美	96	114	210	62	142	204	55	150	205
合計	329	275	604	260	303	563	216	325	541

(南加賀農林総合事務所調べ)

## 大豆の収量および生産量

J A	10a当たりの収量(kg)			生産量(t)		
	29年産	30年産	R元年産	29年産	30年産	R元年産
加賀	144	122	94	236	193	137
小松市	178	160	122	409	346	240
能美	200	161	171	421	348	344
合計				1,066	887	721

(南加賀農林総合事務所調べ)

## 検査結果 (R元年2月末現在)

	総検査数量 (トン)	等級比率(%)				粒別比率(%)				
		1等	2等	3等	特定加工用	大粒	中粒	小粒	極小粒	
27年産	923.1	0.7	5.5	38.2	55.7	94.9	4.4	0.6	—	
28年産	1,057.9	0.0	0.0	10.4	89.1	74.3	23.4	2.3	—	
29年産	990.4	0.0	0.0	11.5	88.2	93.4	6.1	0.6	—	
30年産	778.4	0.0	0.0	11.5	88.5	88.8	10.1	1.1	—	
R元年産	J加賀	137.2	—	—	2.8	97.2	87.3	11.7	0.9	—
	J A小松市	240.4	—	—	5.5	94.5	61.1	33.4	5.5	—
	J A能美	344.0	—	—	1.5	98.5	67.1	26.0	6.9	—
	J A根上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	721.6	—	—	3.1	96.9	71.8	23.7	4.5	—

(南加賀農林総合事務所調べ)